文部科学省教育課程特例校としての取組を発信するニュースレター

2026.3月

幼小中一貫教育研究だより Vol.14

幼小中一貫教育をより発展させるために、レジリエンスの育成をめざした取組をしています。

（研究主任）　広兼 睦・梅野 栄治・堂面 貴洋

子供の挑戦・つまずき・努力を支える保育・授業とは

本年度の研究テーマは「レジリエンスの育成をめざす幼小中一貫教育カリキュラムの研究－子供の挑戦・つまずき・努力を支える教師のマインドセットに着目して－」でした。

昨年度の研究結果から、今年度は、保育・学習場面における教師のかかわりの重要性を鑑み「教師のマインドセット（教師がどのように考え、日頃の取組をしているか）」に着目して、レジリエンスの育成をめざしてきました。そして、レジリエンスを育むために教師が大切にしている考えを以下の３つにまとめ、保育や授業を行ってきました。

①努力を承認する。成長を具体的に示すことや子供の取組のプロセスを評価する。
②失敗は成長のチャンスと考え、フィードバックの質を高める。子供の課題と改善点を具体的に示して成長を促す言葉かけを行い、次の行動を促す。
③子供の挑戦を促す多様な学習環境を設定する。少し難しい課題を与え、目標設定の段階をサポートする。

幼稚園では、最初は運動遊びに苦手意識をもっていた子供が、長縄跳びを“やってみたい”と思った瞬間を逃さずそれを支えるかかわりをしたり、悔しいと感じて涙が出ていた時に努力の過程を認め、成長が感じられるようなかかわりをしたりしていきました。そうすることで、長縄跳びだけでなく右上のような雲梯にチャレンジしようとする姿など様々な運動遊びに挑戦する子供の姿へと変わっていきました。

小学校では、１・５年生交流の際に５年生が自分自身で課題に気付いた時に、すぐ次の行動につないでいけるように、教師は実践できる場や時間を保障するようにしました。そうすることで、５年生は気付きをいかしながらよりよい交流になるよう自分たちで考え行動する姿へと変わっていきました。

中学校では、難しいと感じると“わからない”と粘り強く考えることを諦めてしまうことがあった子供に対して、自分自身で疑問がもてるように子供の考えを引き出しながら教師がかかわっていきました。また自分なりに考えを整理している姿などを見逃さず、努力を認めるようなかかわりをしていきながら、成長が実感できるようにかかわっていきました。そうすることで、子供が少しずつ自分事として様々な場面で思考する姿が増えていきました。さらには、グループの議論の中では、粘り強く考えるだけでなく、他所の考えから問題解決を図ろうとする姿へと変わっていきました。

このような保育・授業を実践していく中で、今年度は新たに以下の３つについても、教師のマインドセットとして大切であることが見えてきました。

○安心・尊重：安心して発言したり行動できるような場を整え、挑戦と表現の出発点をつくる。
○対話・協働：対話の場・聴く時間・協働が必然になる活動の場を意図的に設定する。
○足場かけ・支援の調整：子供の思いや考えを言語化したり、整理したりし、振り返りを支えながら個に応じて「待つ×支援」を調整する。

今年度の実践をもとに、来年度も子供たちの“やってみたい”“学びたい”思いがたくさん膨らみ、たくさん挑戦し、成長を実感できるような実践を進めていきたいと思います。

広島大学附属幼稚園（三原園舎）
広島大学附属三原小学校・中学校
〒723-0004 広島県三原市館町二丁目6番1号
HP: https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara

HPも今すぐチェック！

アンケートのご協力をお願いいたします。（裏面をご覧ください）

研究だより（カラー版）

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。
学校園ホームページから、カラー版を閲覧できます。
よろしければぜひご覧ください。

学校園ホームページ「幼小中一貫教育研究だより」URL
https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/R7kenkyudayori

研究だよりの
アンケートにご協力ください

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。
子どもたちのよりよい学びにつなげるため、こちらのアンケートにご協力をお願いいたします。

アンケートフォームURL　https://forms.office.com/r/NcyaJhnhN4